

17) 絵馬信仰

Votive Picture Table of a Horse

東京都 新藤恵久

Yoshihisa Shindo, Tokyo

わが国では、古来から馬を乗物として神聖視し、神前に生きた馬や馬形（土馬、木馬）を奉献した。馬形は次第に簡略化され、平安時代には、馬を描いた板が現れた。

室町時代に入ると絵馬も大型化し、次第に豪華絢爛なものが奉納されるようになった。

こうした大絵馬は、絵馬堂などに掲げられ、一流の絵師の手になるものなども多く、庶民信仰とはあまり関係がみられない。

一方、小絵馬信仰は、江戸時代ごろから盛んとなり、きびしい現実のなかで、小絵馬に託された庶民の願いがうかがわれて興味深い。

小絵馬に見られる願いには、良縁を求めるもの、

子宝に恵まれるよう、亭主の女狂いやギャンブル通いが止まるようとか、歯痛、眼病を癒してくださいとか、庶民の生活を知る上で貴重である。

現代の小絵馬は、受験合格祈願が多く見られるが、就職、恋愛、金儲けなどの絵馬もみられる。また、戦時中には無事生還できるよう祈るものもあった。

西欧の絵馬 エクス・ヴォト

カトリック教にわが国の絵馬に似た信仰があった。

ヴォトとは「祈願」という語で、エクスは接頭語の「…の後」で祈願をした後の感謝という意味であるという。